

## 中空のもの

走りつづけてゐる男の小さい姿  
奇妙な形をして方々に高くそびえ立つ泥炭色の岩石  
縦横に地面を大きく区切つてゐる黒い割れ目  
荒れはてた野のひろい眺めは一面に茶色がかつてひろがつてゐました  
もし暗黒の中にぬりこめられてしまつた時もなほ  
同じ状態がつづいてゐるのであるならば  
絶望とはさういふことを言ふのであらうと思ひます  
直線に突進して相当の時間がたつても  
男はどの割れ目に落ち込むといふこともなく  
泥炭色の岩石に近づくこともないのです  
地面はところどころに凹凸を示しながら茶色でした  
砂ほこりをまきあげながら風がうつすらと白く吹いてゐました  
細い木が哀れにゆれて影もそはそはとゆれてゐました  
まるまつた枯草のやうなものがいくつかいつせいに動いてゐましたが  
男の高さの数倍もあつたのですから  
みんな大きいものであつたにちがひありません  
小さい白い男の顔が地面を動いて行くのは  
みちかい白い線が次々に消えながら移動して行くやうに見えました  
それは男が上を向いてゐたからなので  
目も口も見えなくても一心に何ものかを追つてゐることがわかりました  
くるくると向きをかへまた直線に走つて行つてとどまることもないのですが  
男の動く方向には目的が示されてゐるやうに見えました  
そのほかにはつきり動くものとしては  
中空にゆつくりと動いてゐる白い小さい紙のやうなものだけでした  
どんよりとおさへつけるやうな大空は鉛色なのですがかがやきは全くありません  
ひろびろとひろがる眺めのなかに狂気のやうに  
一枚の茶色の布でつくつた衣服をまとつた男は  
すそをひきずりながら走るので全体が疲労を背負つてゐるやうでした  
走りつづけてゐるのは中空にひるがへるあの白いものを  
目的としてゐるからにちがひありません  
男の顔と同じ白さで同じ形で落ちて行くやうにも見え  
旋回するやうにも見え舞ひあがるやうにも見えました  
ある一点に来ると回転して見えなくなつて  
また現はれてゆつくりゆつくりと動くのです  
男はそれと斜めの直線に結ばれてゐるやうに  
それを目がけて走り廻つてゐたのです  
風にさからつてゐる場合にも同じ速さを保つてゐました  
求める方が影で求められる方が浮遊してゐるのでした

二つの点といつてもいい関係づいた二つのものは  
一方は風のやうに自由であり一方はその影のやうになつてゐました  
彼等は永遠の運動の関係にあるかの如く  
茶色の風景の荒れはてた野を動いてゐました  
麓になるほど太くなつてゐる岩石に近よることもなく  
ばくつと断絶してゐる黒い割れ目に落ち込むこともなく  
とどまることを知らない追跡に男の小さい姿が走りつづけてゐたのです  
一度だけはこんなこともあつたのですがすぐにもどつてまた彼は走りつづけました  
中空のものは誘導するやうにゆつくりと移動してゐましたが  
姿をかくしたといふかひつくりかへつてみせたのです  
目的を見失つて精神の動揺があつたためなのかどうしてなのか  
男が何ものかにつまづいたやうに急に姿勢を崩したのです  
その時ひきずつてゐる茶色の衣服がまくれあがり  
右足か左足かはわかりませんでした  
二つに折れた一本のマッチ棒のやうな男の下半身が小さく白く現はれました  
がくつといふ音が大きく重たく風景の中にひびきました  
それ以外の変化は一切なく走りつづけてゐる男の小さい姿  
中空のものはひらひらとゆれて  
いつまでもゆつくりと体をかはしつづけてゐるばかりでした